外国語1組（木３）10月22日のリフレクション

①小学校の外国語活動は、子どもたちが「楽しい、学びたい」と思うような授業づくりが大切だと思うが、その点において、評価方法が難しいと感じた。ただ、子どもたちが書いたものを見て適切な文章が欠けているか判断したり、正しく発音ができているかで判断したりするのは違うと思うので、外国語活動に対する姿勢や取り組み方といった過程もしっかりと見て評価したいと思う。指導方法についての話の中で、英語を聞いたり話したりして、音声に慣れ親しむことが必要だということがわかった。音声に慣れ親しむということは、英語の本質を学ぶ上で欠かせないものだと感じた。私自身、自分の英語の発音に自信がなく、教師として外国語を指導するということに不安があった。しかし、Chantなどの音声教材が充実していることを初等外国語の講義の中で報ったので、自信のないところは教材で補ったり、ALTの代わりに教材を使って、ネイティブの発音にも慣れ親しませたりできることがわかった。また、子どもたちが「言葉を分析的に捉えることができるようになる」ことは、外国語活動において理想的なもので、この流れを作ることができたら、ひたすら文法問題を解いたり（ドリル学習）、暗記したりといった単純作業が減り、自発的に学ぶことにもつながると思う。

②今回の講義を通して、英語を教えるうえで、音の理解ができているかどうかの重要性について深く理解することができました。私が中学校時代に行われていた英語の授業で、まだ聞いたことのない単語の書き写しが宿題として出されていたことがありました。その時、自分が今何を学んでいるのかも分からないまま、ひたすら宿題をこなしていました。いま振り返って考えてみると、その時に学んだ単語は一時的には頭に残るものの、自分自身の理解したものとしては残っていなかったように感じます。このことからも、文字の名称をしっかりと正しい音で子どもたちに理解させたうえで、読み・書きを行わせるべきだと感じました。また、このように、どの部分に重点を置いて評価または、教授すればよいのかを教師が理解しておくことによって、動画内で行われていた、短冊などを活用した深い学びのある授業を行うことが可能になると考えます。各単元ごと、またはそれぞれの授業時間ごとに、どの部分を理解してほしいのかを教師がしっかりと考えながら授業を組み立て、子どもたちの学びたいという意欲をそがないような柔軟な授業づくりができるように、より教材研究をしていきたいと改めて感じました。

③これまでの外国語の授業は、話す・聞く・読む・書くの4技能を一斉に指導していたので児童にとって負担になっていたので、母語である日本語と同様に話す・聞く活動を通して英語に慣れ親しむことが外国語の授業を展開するにあたって重要だと学んだ。また、書き写す活動を通して複数形の-sや冠詞のaに気づけるが、そのためには、それらの文に慣れ親しんでいる必要があるので、話す・聞く活動の必要性を実感した。英語は、日本語とは違い文字と音が一致しないことが多く、児童はそのことに引っかかるということや、教師と児童・生徒の当たり前は同じではないことに常に自覚的にならなければならないと考えた。

④今日の講義で「音声で十分に慣れ親しんだ表現を読んだり書いたりする」という順番が大切だと学び、自分が中高で感じていた違和感はこれだったのかなと思いました。すぐに単語テストやスペル、文法などの授業が始まり「座って書く、自分で読む」というスタイルの学び方に、中学校に入りたての時はあたふたしていたことを思い出しました。それは聞く・話すという音声での十分な体験がなかったからだと分かり、小学校での外国語に対する慣れ親しみや英語の特徴の基礎をしっかり理解しておく、経験しておく学びがとても大切だと感じました。児童が苦手意識を持たずに、気軽に楽しく外国語に挑戦していける授業作り・雰囲気作りを意識しつつ、教材研究を丁寧に行って子ども側の負担が少ない手掛かりがちゃんとある楽しい学びになるようにしたいと強く感じました。読む・書く時にもちゃんと子どもが聞けているか、話したり読めたりしているかなど理解に基づいた読み書きになっているか配慮しながら、授業を調整する必要もあると思いました。

⑤英語を教える上で大切なことは子供が実用的に英語を使えるかどうかでそれをどのように教師が教える必要があるのかがよくわかった。 また、授業をする上で教師が教材研究や事前にやることの準備を的確に進めることで児童が自らやりたいことを率先して学ぶことができることがわかったことから、教師の環境の配慮の重要性を学ぶことができた。 自分はこの学習からより良い形で授業を行うことを意識した教員になろうとおもいました。

⑥本講義は遅れての参加だったので序盤の話のスモールトークの部分は聞けてはいませんが後半の読むこと、書くことの指導方法の話についてはとても為になるような話を聞けました。読むこと、書くことの前に言葉の意味を理解していなければ何の意味も持たないただの作業になってしまうので話す、聞くで言葉の意味をしっかりと理解した上で十分に慣れ親しませたうえでの読む、書くの効果が発揮されることを学びました。この4技能の学び方にも段階がある事は重要だと思いました。自分の中学時代にもただ単語を書いていた経験があり英語離れの大きな要因にもなったと思うので教える立場として慣れ親しむ事をいしきしていきたいです。

⑦二重投稿のため削除

⑧今日はまず授業の最初にsmall talk を行いました。自分の意見を伝え、その途中で相手に質問を投げかける展開をつくっていくことが大切だと分かりました。後半のほうでは指導法についてのビデオを見ました。「言語活動」として読むこと、書くことを設定し、ワードリストを参考に書く指導法を学ぶことができました。評価方法では、小文字、大文字を正しく書くことができているか、スペースをちゃんとあけているか、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を読んでいるか、が基準になっていることが分かりました。

⑨アルファベットは文字には名称とは別によって様々な音があるなど、英語は子どもたちにとってとても難しいものであると理解した上で自分の考えをや気持ちを伝え合う方ができることを目指すことを大切に教員になったら授業していきたいと思った。そして、英語の学習で聞くこと話すことがままならないのに、読むこと、話すことをしても意味がないということを今回の授業で聞いて、私は今まで聞くこと話すことの授業を十分に受けていなかったので、読むことの学習をしても十分身についていなかったことに気づきました。また書くことで言葉を分析的にとらえることができるということを知り、音声で十分に子どもたちに英語に慣らさせることでこのような気づきが得られるということは、子どもたち自身で気づける大きな喜びになると思うし、やはり聞くことを最初に学習することは大切だな、と改めて気づかされました。スモールトークで英語に使い慣れてもらい、スモールトークをするときは子どもの考えや気持ちを伝え合うことを大切に、そして学習指導要領を大学生のうちに小学生にはどこまで教えればいいのかなどきちんと確認して楽しい英語の授業ができる教師になりたいと思いました。

⑩今回の授業で一番大切な事項だなと感じたのは、「外国語に慣れ親しむ」ということだった。文字指導の前に聞くこと、母語と同じ様に言葉に対して慣れ親しむことが重要になると説明があった。このことから、学校教育において「外国語は特別である」という様な認識があるために、子供たちは外国語に対して苦手意識を持ったりするのではないかと考え、言葉に慣れ親しむことは大切なことであり、教師は子供たちが外国語に対して身近に、そして学びたいと思える様な授業づくりをしなければならないと考えた。スモールトークの実践では、子供たちに伝えたい内容は保ちつつ、伝わる単語や文法で構成する点で難しいと感じた。山中先生の実践例では、言語活動において、子供たちが知りたいことをワードリストとして見える化していた。しかし、私自身、自分で調べることも大切ではないかと考えているため、ワードリスト等のヒントを子供たちに与えるタイミングが難しく、子供たちにとって主体的な学びができるカギとなってくるのではないかと思う。（名前がありません）

⑪今回の講義で一番印象的だったのは、4技能の指導が同時であると学習者にとって負担になるという点である。今まで、塾のアルバイト等で生徒に英語を教える際に、「なんで発音が違うの？」、「なんで大文字と小文字でこんなに書き方が違うの？」などといった質問をされた際に、「英語のルールだから」とあいまいな表現で示していた。しあｋし、それは学習者にとって明確な答えとはならず、確かに英語の決まりではあるが、発音の仕方と書き方、文法を同時に学ぶことはとても複雑で難しかったに違いないと思う。自分たちの母語でさえ、幼いころから何度も反復し、目で見て聞くことによって習得していくのに、小学生や中学生のまだ日本語表現も完ぺきではない子供たちに英語を完ぺきに発音からスペリングまで覚えてテストをさせても、ただただ英語に対する苦手意識が生まれるだけである。この不自然な学習プロセスがあったことに気づけたことは大きなことである。英語教育においては、私たちは少なくとも約8年間の英語教育を基に生徒たちに授業を行うが、生徒の「わからない」に気づいてあげられるようにしていくべきだろう。つまりは、学習者の目線に立って、英語を学び教えていく必要があると考える。また、中学校との連携をとるためには、やはり小学校での英語教育で子供たちの英語の基盤を作ることが重要とされるため、ただ単に楽しい英語活動で終わらせるのではなく、生徒一人一人が英語に慣れ親しみ、指導要領に指摘されているレベルまで英語を扱えるようになっていないとこれからの英語教育の成長は難しいだろう。

⑫授業の中であったように、英語を話したり聞いたりするのと、読んだり書いたりするのは全く違って、“How are you?”という簡単な文章や聞き慣れた英語でも、実際に文章を英語で書いてみたり、単語の区切りがどこか(どのような単語の組み合わせか)を考えたりすると、途端に難しく感じ、できなくなる、という経験が自分自身にもありました。このことから、音声での学習から文字での学習に移行する際のつながりがとても大切で、子どもたちが意識しやすくわかりやすい教え方をしていく必要があると感じました。また、小学生の時点ではまだアルファベットの大文字・小文字の区別や違いについても理解できていない状態であるため、今日の授業で扱った“LAWSON”や“Family Mart”の正しい綴りを選択肢の中から選ぶ問題のように、身近なものから英単語を見つけ、大文字・小文字の違いを知ったり特性を理解したりできるような活動を取り入れたいなと思いました。さらに、今日見た映像の中であったように、子どもが書きたいと思う単語や文章などをあらかじめ「ワードリスト」にして配布することで、授業内で調べる時間を短縮して子どもたちが文章を考えたり練習したりする時間をたくさん取ることができ、教師も本当にわからない子どもや理解できていない子どもに個別的に指導をすることが可能になるため、とても効率的で子どもたちにとっても習得しやすくなると思いました。このように、英語を「読むこと」「書くこと」は小学生の子どもたちにとってはハードルが高いため、短い時間の中で子どもたちがたくさんの文字に触れ、いろいろなことを読んだり書いたりできるように、教材の工夫や支援をしていかなければならないと感じました。

⑬私は今回の講義を通して、英語を教える際は、母語と同じように、「聞くこと」、「話すこと」から先に取り組み、まずは子どもたちに音声を通して慣れ親しんでもらう必要があるということを学んだ。それと同時に、もし、「聞くこと」、「話すこと」の前に「読むこと」、「書くこと」から指導してしまうと、子どもたちは文字が書けてもその文字をどのように発音するのか分からないため、身につけることができず、子どもたちに大きな負担をかけてしまうことに繋がるということを知り、まずは音声を通して慣れ親しんでもらうことが非常に大切であるということを思い知ることができた。私が小学校の時に実際に受けていた外国語活動の授業を今思い返してみると、読むことや書くことは一切せず、ALTの話を聞いて一緒に会話をしたり、英語の音声を聞いて真似して発音してみたりと、聞くこと、話すことの活動が中心の授業だった。これは、中学校に上がる前に音声で英語に慣れ親しんでもらうための取り組みだったんだと今日の講義で納得した。また、琉大附属小学校の英語の授業で、教師が事前に子どもの書きたいことが載っているワードリストを作成し、それを活用しながら書くことの授業を行っているのを見て、子どもたちが本当に書きたいことを英語で書くことができるよう、教師がしっかり手助けしていたため、とても良い案だと思った。私も教師になったら、子どもたちが本当に英語で表現したいことを表現できるよう、手助けし、子どもたちと共に学んでいけるようにしたいと考えた。

⑭今回の講義で驚いたことは、「読むこと」「書くこと」の指導方法について、読むこと、書くことの前に聞くこと、話すことに十分慣れ親しんで行わないといけないというのを学びました。そうしなければ、学習者に大きな負担となり不自然なプロセスとなることを知りました。授業を行うときに、教師自身が進めたいように勧めるのではなく、学習者がどのように感じるのか、どのようにしたら学びやすいのか考えながら行わなければならないと思いました。また、今回の講義で見たビデオの中で琉球大学附属小学校の先生の考えに新しい発見がありました。子どもが書きたくないことや読みたくないことをやらせてしまっている、という、ことでした。私が小学校や中学校の時には、あらかじめ使う単語が決められていて、その時はその範囲で文を書けばいいからなんなく、こなしていました。しかし、これは、自分の本当に言いたいことではなく、教師が決めた範囲でのことでした。そのこともあり、英語の文を作る授業が単調に感じるようになりました。それは、まさに、附属小学校の先生が言っているようにやらされている、という状況だったのかもしれません。そこで、付属小学校の先生が行っていた工夫は子どもたち主体で良い学びだと思いました。子どもたちだけではなく、子どもから教師も学ぶことができるような授業だなと思いました。ただ、カリキュラムをこなすのではなく、子どもたちにとって良いインプットであり、良いアウトプットができるような授業が行えるようになりたいと思いました。

⑮今回の講義では、実際の小学校ではどのような英語の授業が行われているのか、なにを大切にしているのかを学んだ。私もこれまでの英語学習で行きたい国や、夏休みの思い出などを文章にして発表をする授業などを受けてきたが、教科書の中にある何個かの候補から行きたい国を選んだり、語句を選んだりしていた。しかし、今回の映像で見たように教師があらかじめ子ども達に行きたい国のアンケートをとってその国の候補を作ったり子ども達が本当に伝えたいことを伝えられるようなサポートする工夫はとても良いと感じた。また、コミュニケーションをとりながら発表できるような学習はこれからの授業で大切になってくるものだと感じた。私が将来教員になった時、子ども達の意見を取り入れながら子ども達が自分の気持ちを伝えやすく、お互いの意見交換がしやすいような環境を作り、コミュニケーションを大切にできるような授業づくりをしたいなと感じた。 小学校教育への外国語の授業の導入を生かして、小学校教育では英語が楽しいと感じてもらい、英語が難しく苦手なものではなく親しみのある教科と認識してもらえるような授業展開をしていきたいなと感じた。

⑯今回の授業は「読むこと」、「書くこと」について考えて、児童が外国語科教育を行う際には学ぶものの順番に重要な役割があることを感じました。私も中学校からの英語の授業を受けて感じることは「読むこと」「書くこと」が初めからすごく重要視されており、講義を受けてきたように感じられます。しかし、今回の授業から「聞くこと」「話すこと」が出来ている前提のものであることが分かった。その前提が抜けている授業は今の学校の授業には多くあるのではないかと考えました。確かに読み書きが重要ではあるのだが、実際に身に付けることを目的とした際には授業内での聞く機会と話す機会を多く設けていかなければならないと感じました。そこに、スリーポイントクイズを用いたり、スモールトークの時間、英語の歌を聞いて耳からの吸収を手伝うなどの工夫ができるのではないだろうか。

⑰今回の講義では自分なりのスモールトークをどのようにして実践するかについて話し合いました。私は外国語の授業なので大きなって学んでみたい言語についてノリエ内容を取り上げようかと思いました。他のグループメンバーは行きたい国について取り上げ、そこから好きな歌手などと繋げてみるなどの意見が出ました。それぞれのスモールトーク実践について話し終えた後にスモールトーク自体について具体的に話し合いました。メンバーの1人が実際に教育実習に行ってきた感想と踏まえて話した意見で、スモールトークはなるべく自然に行われる方が良いと言っていました。突然生徒が話していた内容を発展させるような形で始まるスモールトークもあったと言っており、良い導入だと思いました。このような自然の流れで子供達の日本語脳を英語脳に切り替えられるので、教師の負担そして子供たちへのストレスや負担もあまり状態を作り上げることができるのではないかと思いました。

⑱二重投稿のため削除

⑲まず、自分の行きたい国について会話文を考えてみた。私は受験以来英語を使う機会が中々なかったため、会話を文章にする事が難しいと感じた。普通に使えていた英語なのに、しばらく離れてしまうとここまで浮かばなくなるのかと少しショックを受けた。このことから少しでも持続的に英語に触れる機会を設けていく必要があるなと感じた。また、考えてきたものを見ず、アドリブで会話をしてみると、why?などと言った簡単な単語しか出てこなかった。話し合いの中でwhy don't you?など決まった定型文を入れれば、日常でも応用しやすいのではないかという意見がでて、いかに学習内容を上手く組み込めるかが大切だなと感じた。そして、常に子どもたちと一緒になって学ぶ姿勢をつけることが授業作りをする上で必要だなと思った。(阿波連和奏)

⑳今回の講義は通信環境が悪くてグループワークにも参加できませんでした。次回までに改善していきたいです。

㉑小学校一年生がいぬという平仮名を書くとき、🐶(犬)が犬であるとわかっているから「いぬ」と書かせる活動をすることができるのであって、平仮名を知っているからと言って「そしょう(訴訟)」と書かせることは珍しく、「読むこと」「書くこと」の学習が始まる前に「聞くこと」「話すこと」に十分に慣れ親しんでいることが大切で、「聞くこと」「話すこと」に十分に慣れ親しんでいないのに「読むこと」「書くこと」の学習に入るのは負担が大きいばかりか、不自然なプロセスであるということを学んだ。How are youでも読みの段階で１つのまとまりとしてとらえていても書きでHowとareとyouの３つの単語からなっていることに気づくことができるため、読みで慣れ親しむことで、それを参考に書きで分析することができるようになるということも学んだ。

㉒今回の外国語の講義では、小学校高学年における読む、書くについての学習とSmalltalkの学習について学んだ。まず、今回のSmalltalkについてのグループワークで英語科の先輩から非常に面白い話を聞かせてもらった。Smalltalk は今日の天気や週末の予定など話の話題はなんでも自由でいいのだが、Smalltalkが英語の授業前のウォーミングアップになるから非常に大切であるという話を聞いた。また、授業に集中できてない子に「何かありますか？」と英語で話を振ってみることも非常に効果的であるという話を聞きました。授業の中で占める時間は少ないけれど非常に大切なワークであると感じた。 また、小学校高学年の読む書くという学習について七夕を英語で書くなど具体的な学習を学んだのだが、私はもう少し話す聞くという学習について学びたい。私の学生時代でも読む書くということは非常に時間をかけて学びました。しかし、それで英語でコミュニケーションを取れるようにはなりませんでした。私は、今後の英語学習は話す聞くという学習を積極的に取り入れていくことが非常に大切であると感じます。

㉓二重投稿のため削除

㉔実際にやってみて、自分が言いたいことを簡単な英語で表現すること、子どもたちが反応しやすい質問を作ることの難しさを感じた。教科書の内容や 授業内容に関連するSmall talkを行うことで、導入しやすいし、子どもたちが英語に親しんで学べそうだなと思った。 次に、ビデオで小学校高学年における英語の読み書きの授業を見た。そこでは、季節に合わせ、短冊に願い事を書いたり、有名人になりきって自己紹介を書いたりしていた。テンプレではなく、自分自身の発想も大事にしながら、必要語句は調べつつ英語を書いていくというのは、とても定着しやすいと思う。また、評価の観点においても、語句と語句の間をみて、読みやすさなども評価していたので、英語は相手に伝えるというコミュニケーションの道具として、教師自身が捉えているんだなと思った。 堅苦しいイメージを持たれがちな英語だが、このように同じ授業でも、Small talkや面白い発想の英作文で、英語を楽しいものと思ってもらえたらなと思う。そのために、英語の語彙を豊かにしたいと思う。